



事務局ニュース

〈11号〉2016.12.1

今年もあと1か月を切りました。東京でも雪が降るなど、日本各地で天候不順が続いた一年でしたね。



第9回東海選手権

11月13日

三重交通G スポーツの杜 鈴鹿水泳場にて、第9回東海選手権が開催されました。愛知勢は大会記録12個、東海4県最高記録3個(学童2個・高校1個)、愛知県記録も2個樹立し、見事9連覇を成し遂げることができました。特に小学生の部200mフリーでは日本学童記録に0.7秒に迫る好記録で優勝を飾ることができました。

今大会より混合リレー・メドレーリレーが種目に追加され、各世代が協力しあい力泳する姿に応援も熱が入り、愛知県チームとして戦うことができたと思います。応援に駆けつけていただいた保護者・所属クラブコーチの皆様、ご声援ありがとうございました。

古式泳法(日本泳法)ってな~に?

昔の人はプールはなく、川や海を塞ぎ止めて練習していました。もっとさかのぼれば、戦うために泳いで川や海を渡ったりしました。そのための泳ぎ方が顔を上げた平泳ぎです。

現在、日本水泳連盟が奨励しているのは13流派で、愛知県は和歌山県発祥の「小池流」を受け継いでいます。昨年、本連盟に日本泳法委員会が発足し、活動を始めました。



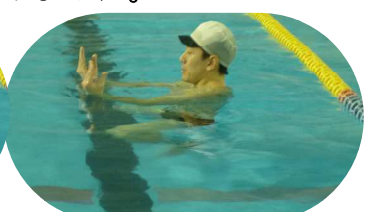
平泳ぎ正体



かもめ



捨て身



立ち泳ぎ

いろいろな泳ぎ方がありますが、上写真はその一部です。平泳ぎ正体が基本で、足は蹲踞(そんきょ)の姿勢をとり下の方向に蹴ります。 *蹲踞とはおすもうさんがしゃがむ姿勢です

委員会として、まず日本泳法を体験してもらい普及・発展につなげようと、昨年より講習会を開いてきました。今回は3回目になり、小池流の高橋水右衛門(数隆)師範と息子さんに来ていただきご指導を受けました。初めての参加者は、手・足ばらばらで必死に泳がれていましたが、「高橋師範の素晴らしい試技を見ることができた」「楽しかった」「日本泳法の奥深さを体験できた」「競泳とは違い勉強になった」等、充実した講習会であったと感じました。委員長より

〈参加者の感想より〉

「現代に蘇る日本泳法」?のDVDで小池流の動きを学ばせて頂いておりましたが、まさかご本人とお会いできるとは思いませんで、非常に感激しました。本日の先生方のご指導も大変参考になり、今後も是非練習していきたいと思ひます。もし可能であれば、自主練習のためにも、DVD以外の技術解説みたいなものを作っていたいただければと思ひます。
(20代男性)



↑師範の指導風景

水泳歴6年目の私は、古式泳法を初めて体験する機会をいただきました。いったいどんな泳法だろうと楽しみにして参加しました。プールサイドから見た模範演技は、「手と足の動きが、美しい」の一言です。なかでも「差手游」は、前方に素早く差し出す様子が、かっこよくて好きになりました。私も、立ち泳ぎやスカーリングでの前後の移動などに挑戦してみました。先生から「体の力を抜くように」とアドバイスをいただき、自然の浮きを、長く気持ちよく体感することができました。
(60代女性)